

アルゼンチン紹介

第 157 回関西スペイン語教授法ワークショップ (TADESKA) 例会

日時：2022 年 11 月 12 日 (土) 16:20 - 17:00

場所：Zoom を利用したオンライン開催

担当：柳田玲奈

Vamos a conocer algo más de Argentina

CLVII Reunión del Taller de Didáctica de Español de Kansai (TADESKA)

Fecha y hora: Sábado, 12 de noviembre de 2022, de 15:00 a 17:00

Lugar: En línea (Zoom)

Ponente: Reina Yanagida

(La versión española sigue a la versión japonesa).

担当者は日本に生まれ育った日本人だが、幼少期より多少アルゼンチンとの縁が深く、他の教員が授業等でアルゼンチンを取り上げるような機会があれば少しは貢献できるのではないかと、自分が知る範囲内ではあるが、アルゼンチンについて紹介した。以下はその概要だが、残念ながら時間のコントロールが悪く、後から思えばもっと自分が魅力的だと感じている点に絞ってもよかったなと反省しているところである。当日参加してくださった方々には、終了予定時刻をオーバーしてしまったことを改めてお詫びしたい。

当日の発表は以下の流れで行った。ここでは第 2 節と第 3 節の内容を中心にまとめる。調べれば誰でも手に入る情報が多いが、ここにまとめることによって教員の皆さんの手間省きになれば幸いである。

1. Argentina y yo
2. Datos básicos de Argentina
3. Algunos destacados de Argentina
4. Mi experiencia en Argentina
5. Argentina por fotos

アルゼンチン基本データ

- ・首都：ブエノスアイレス
- ・面積：278 万km² (日本の 7.5 倍)
- ・人口：4538 万人 (日本の 3 分の 1)

- ・大統領：Alberto Fernández (2019 -)
- ・副大統領：Cristina Fernández de Kirchner (2019 -)
- ・5月革命 (1810年5月25日)
- ・独立宣言 (1816年7月9日)
- ・通貨：アルゼンチンペソ(USD1 = 156 pesos)
- ・民族：ヨーロッパ系 (主にスペイン系とイタリア系) 97%、先住民系 3%

アルゼンチンが独立してから 200 年余りが過ぎた。独立の立役者だった将軍 José de San Martín は、el padre de la patria と呼ばれている。5月革命があった5月25日と独立宣言があった7月9日は、それぞれブエノスアイレスの中心を十字に走る通りの名前になっているし、レティーロ駅の近くにはサン・マルティン広場がある。7月9日通りはその規模で有名で、南北の長さは4kmに渡り、道幅は最大140mもある16車線道路である。

1980年代後半のハイパーインフレにより、アルゼンチンの通貨・物価は混乱を極めたが、1990年代に入りやや落ち着き、US1ドルを1万オーストラルに固定する「通貨兌換制度」を導入した。さらに1992年にその1万オーストラルを1ペソとするデノミネーションも実施され、2001年まではUS1ドル=1ペソという期間が続く。その後、2002年に変動相場制に移行し、現在はUS1ドル=156ペソ。ちなみに現在、円安が続いているため、1ペソ≒1円。

日本外務省のホームページによると、アルゼンチンの民族構成は、97%がヨーロッパ系で、3%のみ先住民系である。ただ、ウィキペディアによれば2015年のデータとしてヨーロッパ系は67%で、アメリカ系先住民が28%、そしてアフリカ系が4%で、アジア系も1%いるということだった。

各界の有名人物

- ・文学：Victoria Ocampo, Jorge Luis Borges, Julio Cortázar, Adolfo Bioy Casares...
- ・政治家&軍人：Ernesto Che Guevara
- ・政治家：Juan Domingo Perón, Eva Perón
- ・サッカー選手：Diego Maradona, Lionel Messi

チェ・ゲバラ

アルゼンチン生まれ。ブエノスアイレス大学で医学を学ぶ。

大学を卒業後、アメリカ大陸放浪の旅に出て、グアテマラでペルー人女性と結婚。

1955年にメキシコでキューバ人のフィデル・カストロと知り合い、その翌年にキューバへ渡り、共に1959年に革命を成功させる。

カストロ政権下で大きな影響力を持ってはいたが、別の地で革命を起こすべくキューバを出て、1967年にボリビアで31年の生涯を終えた。

「チェ」という名前と呼ばれているのは彼がアルゼンチン人だったからだが、よくアルゼンチン人は皆この間投詞を非常に多用すると思っている人がいるがそんなことはない。この間投詞 **che** はアルゼンチン人の代名詞ともされ、たしかに実際に使われるが、かなり粗野な響きを与えるものである。親しい友人同士で使われることがあるが、あまり上品とは言えない。

フアン・ドミンゴ・ペロンとエバ・ペロン

フアン・ドミンゴ・ペロンは、大統領に3度選出された唯一の人物であり、また男女普通選挙で選ばれた初の大統領でもあった。

エバ・ペロンの方が、エビータという名で日本でも世界でも有名だろう。マドンナが主演の映画が作られたこともある。エバはペロンの2番目の妻だった。彼女とその家族の墓はレコレータ墓地にあり、いつも献花が絶えない。

エバはフニンという村で私生児として生まれた。高等教育を受けることなく、モデルや女優として働いていた。24歳の時にフアン・ドミンゴ・ペロン将軍と知り合い、初めはその愛人であった。1945年、26歳の時にペロンと結婚し、その翌年にはペロンが大統領になった。エバは積極的に政治に介入し、国民から人気を集めた。32歳の時に子宮がんを患い、それでも働き続けたが、1952年に33歳で亡くなった。

フアン・ドミンゴ・ペロンは2度目の大統領任期中にスペインに亡命したが、1973年にまたアルゼンチンに戻り、3度目の当選を果たす。しかしその翌年、病死した。

ディエゴ・マラドーナとリオネル・メッシ

ディエゴ・マラドーナは、アルゼンチンサッカー界の伝説的人物である。1960年に生まれ、1976年にサッカー選手として試合に初出場した。それは16歳と10日の時で、当時のサッカーデビュー最年少記録だった。

FIFAワールドカップに4回出場した。1986年のワールドカップでは、「神の手ゴール」と「5人抜きゴール」で世界の注目を集めた。

1997年、36歳で選手を引退し、2020年に60歳で亡くなった。

レオの愛称で呼ばれるリオネル・メッシは、1987年に生まれ、2001年、13歳か14歳の頃、バルセロナチームからスペインに移住しないかと誘われ、家族でスペインへ移った。そして2004年にサッカー選手としてデビューした。さまざまな記録を獲得し、20年余りスペインでプレイした後、2021年にパリのサン・ジェルマンに移籍した。

音楽

アルゼンチンの音楽と言えばタンゴを連想する人がいるが、それは少し違う。タンゴは

いわばブエノスアイレス地域だけの音楽であり、ブエノスアイレスの移民たちが人工的に作り出したものである。それ以外の地域には、各地のフォルクローレが存在する。

タンゴ

- bandoneón
- lunfardo
- Carlos Gardel, Juan D'Arienzo, Carlos Di Sarli, Osvaldo Pugliese, Aníbal Troilo (Pichuco), Ástor Piazzolla, Ranko Fujisawa, Ikuo Abo, Ryota Komatsu

バンドネオンはアコーディオンに似た楽器だが、仕組みは異なる。ボタンの配列がまったく異なるため、バンドネオン奏者がアコーディオンを弾こうとすると一から練習する必要があるそうだ。アコーディオンの左のボタン群は、右手が弾く旋律の伴奏をする和音を出すためのものだが、一方でバンドネオンには一つ押せば和音が出るようなボタンはないし、左手が旋律を弾く場合もある。さらに、バンドネオンのほとんどのボタンは、本体のふいご部分を押しした時と引いた時とで異なる音階が出る。

また、バンドネオンはドイツで発明されアルゼンチンに輸入された楽器だということもよく知られている。日本人バンドネオン奏者の小松亮太氏は、現在使われている、あるいはこれまで使われてきたほとんどのバンドネオンは、ドイツ製であると述べている。アルゼンチンには、バンドネオンの良い修理師はいるが、製作師はほとんどいないそうである。

19世紀末にボカという港地区でタンゴが発祥した当時、それは単なるダンスの伴奏にすぎなかった。まだバンドネオンも使われておらず、フルートやギターで演奏されていた。1910年代頃から少しずつバンドネオンが現れ、1920年代になってようやくピアノも使われるようになった。1917年に有名なタンゴ歌手、カルロス・ガルデルが登場し、彼のおかげでタンゴはまるで現在のポップミュージックのように大衆の音楽になっていった。

ルンファルドは一種の俗語であり、タンゴの歌詞に多く登場する。ブエノスアイレスの「方言」のようなものでもあるが、下層階級の人たちの間で使われていたとされ、例えばこの「ルンファルド」という語も、「泥棒」と同義とされる。つまりルンファルドは泥棒が使うことばだというような認識である。今日でも口語にルンファルドが聞かれることもあるが、幾分粗野なニュアンスを伴う。

ワークショップでは、有名なタンゴ歌手である **Edmundo Rivero** が歌う“Milonga lunfarda”という歌を紹介した。

また、ワークショップでは、担当者になじみのあるタンゴの巨匠たちの名前を挙げて

紹介すると同時に、日本人タンゴ歌手も2人紹介した。藤沢嵐子(1925-2013)は、1950年代に活躍した歌手であり、紅白歌合戦にも5回出場している。阿保郁夫(1937-2021)は、どちらかといえば日本よりアルゼンチンで人気を博した歌手だったようだ。最後に、先述のバンドネオン奏者の小松亮太(1973-)は、2021年度イスパニヤ学会でも講演したので、ご存知の参加者も多かっただろう。

タンゴのダンスは、脚や頭を激しく動かしたり男性が女性を持ち上げたりするようなダイナミックなものだと思われがちだが、実際には、それほど動きの大きなダンスではない。もともとは、男性と女性がかなりしっかり抱き合っただけの類同士のくっついたような状態でゆっくりとステップを踏む。頭や肩を大きく動かしたりすることはなく、女性が持ち上げられることもない。タンゴのダンスには大きく分けて二通りあり、ひとつはショーのための派手なダンス、もうひとつは一般の人たちが日常的に踊るためのダンスである。またそれとは別に、ヨーロッパ風タンゴダンス、いわゆる社交ダンスのタンゴダンスもある。

フォルクローレ

- Chacarera, Chamamé, Zamba, Candombe, Milonga, Malambo, Cumbia
- Atahualpa Yupanqui, Mercedes Sosa, Soledad (La Sole)

ブエノスアイレス以外の地域では、人々は各地のフォルクローレを嗜んでいることが多い。例えば、アルゼンチン北東部（およびパラグアイ）のチャマメ、北西部のサンバ、ラ・パンパのマランボなどである。カンドンベ、マランボ、サンバは担当者にとってなじみがないが、知らぬ間にどこかで聞いたことがあるのかもしれない。

日本でも名前が聞かれるような有名なフォルクローレ歌手と言えば、古くはアタワルパ・ユパンキ(1908-1992)や、比較的最近まで歌っていたメルセデス・ソサ(1935-2009)などが挙げられる。

チャカレラと聞けば、担当者の頭にはソレダ(1980-)という歌手が浮かぶ。初めてアルゼンチンへ行った当時、同世代でチャカレラを歌っていた彼女が大人気だったからだ。担当者がアルゼンチンのトゥクマンで生活していた頃、ディスコ（アルゼンチンでは *boliche*）へ行くと、ポップスやロック音楽と混じってフォルクローレがよく流れていた。チャマメやクンビアを周りの友人たちの見様見真似で踊ったものである。フォルクローレはその土地の人々にとってごく普通のことであり、タンゴを聞く機会はまったくなかった。親族が集まるパーティーや友人たちとの集まりでも、流れるのは必ずフォルクローレで、みんなで歌ったりもした。

その他

コロソ劇場

世界三大劇場のひとつにも数えられるオペラ劇場。世界でもっとも音響効果のいい劇場のひとつらしい。客席は7階建てで、定員は2450名。南半球にあるため、ヨーロッパのシーズンオフの5月～11月には世界的に有名なオーケストラが来るらしい。

マファルダ

マファルダとはこの漫画のタイトルであると同時に、主人公の女の子の名前でもある。キノという漫画家によって描かれ、新聞（アルゼンチンでは *gaceta*）の漫画として人気を集めた。第一話が発表されたのは1964年で、1973年まで連載された。個性豊かな子供たちが登場し、風刺にも富んだユーモアが非常に魅力的な作品である。現在、30以上の言語に翻訳されている。

マテ

ウルグアイやボリビアも含まれるが、アルゼンチンはマテがよく飲まれる地域である。アルゼンチンでは飲み物もそれを飲むための容器も *mate* と呼ぶが、伝統的には肉食文化における貴重なビタミン摂取の方法としても重宝されていたようだ。

そこに含まれる栄養素や味もさることながら、担当者が注目するのはやはり、その飲み方である。もちろん一人で飲む機会もあるが、マテは一つの容器を複数人でシェアして回し飲みをするもので、友人間や家族間の絆を育み確認するのに非常に貢献する文化であると思われる。

ちなみに現在、現地ではさまざまなフレーバーの茶葉(*yerba*)が販売されている。マテ容器も伝統的にはひょうたんや木をくりぬいて作られることが多かったが、現在はガラスやシリコンなどさまざまな材質のものが売られている。

以上の項目以外にも、ワークショップでは主にブエノスアイレスのいろいろな写真を紹介したり、アサードなどの食べ物や vos 体系(*voseo*)などにも触れた。

(versión española)

Datos básicos

- Capital: Buenos Aires
- Superficie: 2 780 000km² (7.5 veces de Japón)
- Población: 45 380 000 hab. (1/3 de Japón)
- Presidente: Alberto Fernández (2019 -)
- Vicepresidenta: Cristina Fernández de Kirchner (2019 -)

- Revolución de Mayo (25 de mayo de 1810)
- Declaración de la independencia (9 de julio de 1816)
- Moneda: Peso argentino (USD1 = 156 pesos)
- Composición étnica: 97% de europeos (españoles e italianos) y 3% de amerindios

Hace un poco más de 200 años que Argentina consiguió la independencia. El general José de San Martín fue la figura principal de su independencia. El 25 de mayo es el día de la Revolución de Mayo, y el 9 de julio es el día de la independencia de Argentina. Se encuentran las calles o avenidas que tienen esas fechas como su nombre, y también cerca de la estación Retiro se encuentra una plaza que se llama San Martín, el padre de la patria. La Avenida 9 de julio es muy famosa por su escala: tiene 4 km de longitud del norte hacia el sur, y 140m de anchura al máximo, de 16 carriles.

Antes, debido a la hiperinflación al final de los 1980, las fluctuaciones de la moneda argentina habían sido muy inestables. En los primeros de los 1990 se estabilizaron un poco y Argentina introdujo el sistema de convertibilidad de la moneda, en el que 1 dólar estadounidense equivalía a 10 mil australes argentinos. Luego, en 1992, se implantó una denominación de 10 mil australes por 1 peso. De aquí hasta 2001, mantuvo su paridad con el dólar estadounidense. En 2002 pasó al sistema de cambio flotante y ahora 1 dólar equivale a 156 pesos. Así que hoy día, por la depreciación del yen, 1 yen equivale casi 1 peso argentino.

Según la página web del Ministerio de Asuntos Exteriores de Japón, el 97% de la población son de origen europeo, y solo el 3 % son indígenas. Sin embargo, según Wikipedia, los de Europa son 67%, los indígenas de América son 28%, un 4% africanos y 1 % de asiáticos, que dice que es la data de 2015.

Algunas distinguidas personalidades de cada campo

- Literatura: Victoria Ocampo, Jorge Luis Borges, Julio Cortázar, Adolfo Bioy Casares...
- Político y guerrero: Ernesto Che Guevara
- Políticos: Juan Domingo Perón y Eva Perón
- Futbolistas: Diego Maradona, Lionel Messi

Che Guevara

Nació en Argentina, y estudió la Medicina en la universidad de Buenos Aires.

Después de graduarse, recorrió el continente, y se casó con una peruana en Guatemala.

Conoció al famoso cubano Fidel Castro en México en 1955. El año siguiente viajaron a Cuba y en 1959 lograron la revolución. Influida grandemente bajo el director Castro, pero buscó la batalla de otra revolución y se murió en 1967 en Bolivia, a los 31 años.

Como se sabe, este se llama “che” porque es argentino. Hay gente que creen que los argentinos siempre hablan con esta interjección, pero en realidad no se usa tanto. Sí se usa, pero se suena bastante rudo. Se usaría entre amigos, pero no suena culto.

Juan Domingo Perón y Eva Perón

Juan Domingo Perón fue la única persona que fue elegida tres veces presidente y el primero que fue elegido por sufragio universal masculino y femenino.

Eva Perón será más famosa en Japón o en el mundo por el nombre de Evita, porque hicieron una película de ella y la interpretó Madonna. Fue la segunda esposa de Perón. Evita y su familia yacen en el Cementerio de la Recoleta. La tumba siempre está llena de flores.

Evita nació como hija natural o ilegítima en un pequeño pueblo que se llamaba Junín. Sin una enseñanza superior, trabajaba como modelo o actriz. Conoció al coronel Juan Domingo Perón a los 24 años, y al principio fue su amante. En 1945, a los 26 años se casó con Perón, y el año siguiente Perón se hizo presidente. Eva intervenía bastante en la política y ganaba una buena acogida del público. Cuando tenía 32 años, sufrió un cáncer cervical, pero seguía trabajando y en 1952 se murió a los 33 años.

Perón, después de su segundo mandato se exilió a España. En 1973 regresó a Argentina y se hizo presidente de nuevo, pero el año siguiente murió de enfermedad.

Diego Maradona y Lionel Messi

Diego Maradona es una leyenda del fútbol argentino. Nació en 1960 y debutó como futbolista en 1976, a los 16 años y 10 días, que fue el récord de la menor edad. Jugó en las cuatro Copas Mundiales de FIFA. En el Mundial de 1986, llamó la atención mundial con “la mano de Dios” y el “Gol del siglo”, en el que Maradona eludió a cinco jugadores ingleses y anotó el gol. Su retirada fue en 1997, a los 36 años, y murió en 2020, a la edad de 60.

Lionel Messi, Leo, nació en 1987. En 2001, a la edad de 13 o 14, el Barcelona lo invitó a emigrarse a España, y debutó en 2004. Ha ganado diferentes récords.

Después de 20 años, en 2021 se trasladó al París, Saint Germain.

Música

Hay gente que creen que la música típica de Argentina es el tango, pero no es verdad. Podremos decir que el tango es la música típica de solo Buenos Aires, y que fue creada de manera artificial por los inmigrantes bonaerenses. En las otras regiones de Argentina hay folclores de cada región.

Tango

- bandoneón
- lunfardo
- Carlos Gardel, Juan D'Arienzo, Carlos Di Sarli, Osvaldo Pugliese, Aníbal Troilo (Pichuco), Ástor Piazzolla, Ranko Fujisawa, Ikuo Abo, Ryota Komatsu

El bandoneón es un instrumento musical parecido al acordeón, pero el sistema no es lo mismo. Para tocar el acordeón, un bandoneonista tiene que aprenderlo del principio, porque la disposición de los botones no tiene nada que ver entre los dos. Los botones de la parte izquierda de acordeón son de acordes para acompañar a la melodía que se toca con la mano derecha. En cambio, el bandoneón no tiene botones que sirvan para dar un acorde con solo un botón, y hay veces que la mano izquierda toca la melodía. Además, en el bandoneón la mayoría de los botones dan distintas escalas musicales si se empuja o se tira el fuelle.

Y también se sabe que el bandoneón fue inventado en Alemania y fue importado a Argentina. Ryota Komatsu, un bandoneonista japonés, dice que casi todos los bandoneones que se usa ahora y se ha usado hasta ahora son hechos en Alemania. Dice que en Argentina, hay buenos reparadores de bandoneón, pero casi no hay ningún productor de bandoneón.

Cuando empezó el tango en la zona portuaria que se llama Boca al final del siglo 19, el tango era solo acompañante de la danza, y todavía no se usaba el bandoneón sino la flauta y la guitarra. En la década de 1910 poco a poco empezaba a aparecer el bandoneón, y en los años 20 recién entró el piano. El famoso cantante Carlos Gardel apareció en 1917, e hizo el tango una música popular como canciones pop.

El lunfardo es una jerga, que se usa mucho en las letras del tango. Es un tipo "dialecto" de los porteños, pero solo se usaba entre la gente de la comunidad inferior

(clase baja), ya que por ejemplo la palabra “lunfardo” es un sinónimo de “ladrón”. Es decir, el lunfardo era como el habla de los ladrones. Hoy día también se escuchan algunas palabras del lunfardo en las conversaciones, pero dan un matiz algo rudo o inculto.

En el taller, presenté una canción que se titulaba “Milonga lunfarda”, que canta Edmundo Rivero, un cantante famoso del tango.

Asimismo, nombré en el taller a algunos maestros del tango que son familiares para mí, y aparte de ellos, presenté a unos cantantes japoneses del tango.

Ranko Fujisawa (1925-2013) es una cantante que desplegaba en los 1950 y cantó cinco veces en Kohaku-Uta-gassen de NHK. Ikuo Abo (1937-2021) es un cantante que tal vez ganó más popularidad en Argentina que en Japón. Por último, Ryota Komatsu (1973-) es bandoneonista. Creo que lo conocen muchos de los miembros de TADESKA porque hizo una charla en el Congreso de la Asociación Japonesa de Hispanistas en 2021.

Dicen que la danza del tango muchas veces se conoce como una danza muy dinámica, con muchos movimientos de las piernas, las cabezas, el hombre alza la mujer, etc. Sin embargo, en realidad, la danza del tango originalmente no es tan activa. El varón y la mujer dan pasos abrazados, con las mejillas pegadas. No mueven cabezas ni hombros, y nunca alzan la mujer. Hay dos tipos de danza del tango: el baile para el show y el baile para la gente pública. Aparte de ellos, existe el baile europeo o el baile de salón.

Folklore argentino

- Chacarera, Chamamé, Zamba, Candombe, Milonga, Malambo, Cumbia
- Atahualpa Yupanqui, Mercedes Sosa, Soledad (La Sole)

En las otras regiones aparte de Buenos Aires, a la gente les interesa generalmente el folklore local. Por ejemplo, el chamamé del noreste (también de Paraguay), la zamba del noroeste, Malambo de la Pampa, etc. Yo no conozco mucho sobre el Candombe, el Malambo, ni la Zamba, pero puedo haber experimentado algo sin saber.

De la chacarera, para mí la más famosa es la cantante que se llama Soledad (1980-). Cuando estuve en Argentina por primera vez, teniendo casi misma edad que yo, ella era un ídolo de la chacarera. Cuando vivía yo en Tucumán, a veces iba a la discoteca, que se llama *boliche* en Argentina, con amigos. Ahí ponían el folklore así

como la música pop y rock y bailábamos con la música de chamamé, cumbia, etc. Para la gente de allá, era totalmente normal y nunca escuchábamos el tango. En las fiestas o en los encuentros de la familia o amigos, en cualquier caso ponían el folklore, a veces lo cantaban. Era la música cotidiana y era la suya.

Otros

El teatro Colón

Es un teatro de ópera y uno de los (tres) mejores teatros del mundo. Dicen que es uno de los teatros que tienen los mejores efectos acústicos del mundo. Tiene siete niveles de asientos y capacidad para 2450 personas. Como se encuentra en el hemisferio sur, a veces interpretan unas orquestas mundialmente famosas durante los meses de mayo a noviembre, que es fuera de temporada en Europa.

Mafalda

Es el título de una tira de prensa (*gaceta* en Argentina) por Quino, así como el nombre de la niña protagonista. La primera historia salió en 1964 y siguió hasta 1973. Me encantan los caracteres y el humor que contiene esta obra. Dicen que está traducida actualmente en más de 30 idiomas.

Mate

Argentina es la región donde se suele tomar mate, aunque Uruguay y Bolivia también están incluidos. En Argentina, tanto la bebida como el recipiente para tomarla se llaman mate, y parece que tradicionalmente se valoraba como una forma de ingerir valiosas vitaminas en una cultura carnívora.

Aparte de los nutrientes que contiene y de su sabor, lo que llama mi atención es la forma de beberlo. Por supuesto, hay ocasiones para tomarlo solo, pero el mate se comparte entre varias personas pasando un mismo recipiente de uno al otro. Podremos decir que es una cultura que contribuye en gran medida a hacer y confirmar los lazos de amistad entre amigos y familiares.

Hoy en día se pueden encontrar varios sabores de yerba en el mercado local. Los recipientes de mate se fabricaban tradicionalmente con calabazas o madera ahuecada, pero hoy en día se venden en diversos materiales, como vidrio o silicona.

Aparte de los temas anteriores, presenté varias fotos mayoritariamente de Buenos Aires, y de comidas como el asado, y mencioné el voseo argentino.